

福岡県における酪農経営の実態

城内 仁・武富 功(福岡県農業総合試験場)

Hitoshi JONAI and Isao TAKETOMI: Investigation on the Dairy Farm Management in Fukuoka Prefecture

農畜産物の貿易自由化が進む中で、本県酪農家の酪農経営に対する意識及び飼養管理技術の現状と問題点を摘出し、今後の酪農経営改善の資料とするために実態調査を行った。

1. 調査方法

県下全域にわたって、133戸の酪農家を対象としてアンケート調査した。調査項目は、酪農経営上の関心事及び飼養管理技術の改善方策とした。

2. 結果及び考察

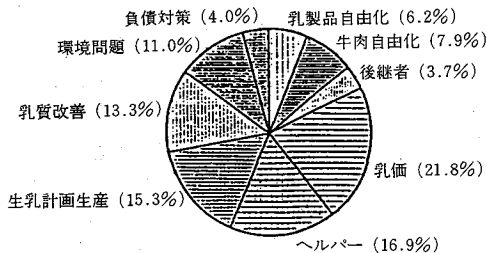
1) 今後の経営上の関心事 酪農家の関心が最も高いのは収益に直接関わる乳価問題であり、次いで若い年代層を中心に労働に対するゆとり志向からヘルパー制度の導入、また、高品質牛乳への消費者ニーズを受け、乳質向上に対する関心が高かった。

2) 貿易自由化への対応策 全階層で最も高いものが生乳生産費の低減、次いで乳質向上、乳肉複合の順であった。飼養規模別では40頭以上の大規模層が生産費の低減を挙げ、20頭規模では乳質向上を、また、60頭以上の規模で乳肉複合経営志向が高かった。

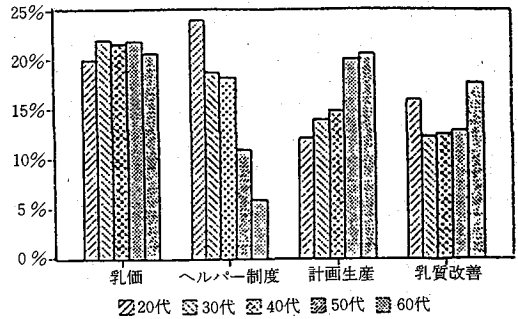
3) 生産費低減の方法 本県の搾乳牛1頭当たりの生乳生産費に占める飼料費の割合が50%を越えることから、飼料費節減を挙げるものが約80%を占めた。飼料費節減には自給粗飼料の効率的な生産とその利用が不可欠であろう。

4) 乳質改善の方法 自家産及び購入による良質粗飼料の給与が約60%を占めたが、コンプリートフィーディング等、飼料給与技術の改善で対応されている。

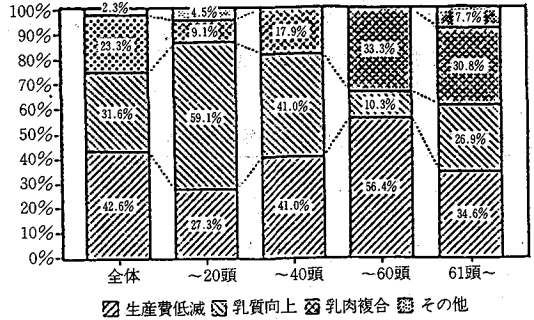
以上のように、貿易自由化への対応は生産費の低減に集約される。その具体策として良質粗飼料を安定的に自給し、効率的に給与する技術の重要性が最認識された。また、今後の移り変わる情勢にも、酪農家が意欲的に対応できるよう、ヘルパー制度等の拡充による労働条件の改善が強く望まれる。



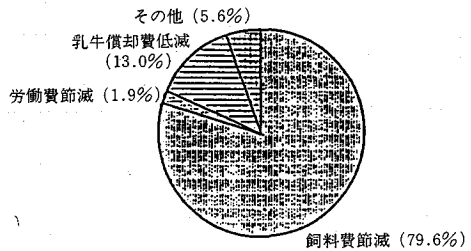
第1図 今後の経営上の関心事(全体)



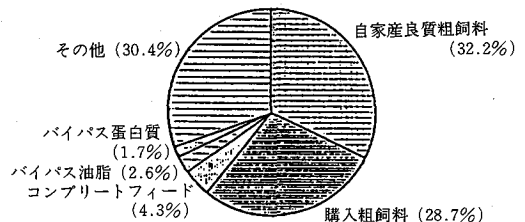
第2図 今後の経営上の関心事(年齢層別)



第3図 貿易自由化への対応策(飼養規模別)



第4図 生産費低減の方法(全体)



第5図 乳質改善の方法(全体)